

温室効果ガス排出量 検証報告書

2026年4月24日

キューピー株式会社 御中

一般社団法人日本能率協会
サステナビリティセンター
上級経営管理者 前田 雅彦



1. 検証の対象及び目的

キューピー株式会社（以下「事業者」という。）が作成した算定対象^{*1}における温室効果ガス（GHG）排出量算定結果「2025年度算定報告書」（以下「算定報告書」という。）に記載の2025年度（国内拠点は2024年12月1日から2025年11月30日まで、海外拠点は2024年10月1日から2025年9月30日まで）の以下のGHG排出量情報に関して、事業者は、一般社団法人日本能率協会 サステナビリティセンター（以下「当協会」という。）に対し、限定的保証を目的とした検証を依頼した。

1) スコープ1 GHG 排出量

算定対象における都市ガス、LPG、A重油、LNG、灯油、軽油の使用に伴って直接的に排出されるCO₂排出量

2) スコープ2 GHG 排出量

算定対象における電力、熱の使用に伴って間接的に排出されるCO₂排出量

3) スコープ3 GHG 排出量

事業者の事業活動におけるスコープ3 カテゴリ 1, 2, 4^{*2}において排出されるCO₂排出量

検証の目的は、事業者のGHG排出量情報が算定方法^{*3}に従って、正確に測定、算出されているかについて、独立の立場から結論を表明することである。算定報告書を作成しGHG排出量情報を報告する責任は事業者にあり、当協会の責任は、独立の立場から算定報告書に記載されたGHG排出量情報に対する結論を表明することにある。

2. 検証手続き

当協会は、ISO14064-3:2019 (Greenhouse gases - Part 3: Specification with guidance for the verification and validation of greenhouse gas statements)の要求事項に従ってGHG排出量情報の検証を実施し、以下の事項を実施した。

- 算定報告書に記載のGHG排出量を決定するために用いられた情報に関する算定方法、排出量算定システム、及び、関連資料の確認を事業者の事務所訪問を含め実施
- 算定報告書の作成に関わる主な担当者へのインタビュー
- キューピータマゴ(株) 茨城工場・茨城第二工場、キューピー(株) ファインケミカル部門、デリア食品(株) 伊丹生産部への訪問による、供給されたエネルギーのモニタリングポイントの現場視察、算定担当者へのインタビューによる算定対象、算定データ、データ収集手順の確認
- GHG排出量情報の正確性を確認するためのサンプリングによる根拠となる資料の確認

3. 検証の結論

算定報告書に記載された GHG 排出量情報は、算定方法に従って、すべての重要な点において正確に測定、算出されていないと認められるような事項は発見されなかった。

検証された温室効果ガス排出量 (t-CO ₂ e)	
スコープ 1	53,671
スコープ 2 ^{※4}	93,221
スコープ 3 ^{※5}	1,599,742
スコープ 3 内訳	
カテゴリ 1	1,483,108
カテゴリ 2	60,198
カテゴリ 4	56,436

NOTE:

※1：算定対象

日本国内における、キユーピー(株)の各拠点、及び、子会社 12 社の生産拠点、アヲハタ(株)本社、深谷ベジタブルコミュニケーション(株)、(株)芝製作所（スコープ 3 カテゴリ 2 のみ）、海外子会社の生産拠点（合計 103 拠点）

但し、スコープ 3 カテゴリ 4 は、海外子会社を除く日本国内分のみ算定

※2：スコープ 3 の各カテゴリの概要

- カテゴリ 1（購入した製品・サービス）：購入した製品、サービスを対象
- カテゴリ 2（資本財）：購入、建設した固定資産を対象
- カテゴリ 4（輸送、配送（上流））：自社への輸送、及び、自社から他社物流倉庫までの荷主輸送を対象

※3：スコープ 1, 2, 3 の算定方法

「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン（ver.2.7）」、スコープ 3 に関しては、CO₂ 排出量算定システム C-Turtle®に内包される排出係数、及び事業者が作成した「算定手順」

※4：算定には、J-クレジット制度に基づく再生可能エネルギー（熱）のクレジット償却分の控除を含む

- ・国内の電力排出係数：電気事業者・メニュー別基礎排出係数を使用
- ・海外の電力排出係数：原則国別（または、グリッド別）のロケーション基準に基づく

※5：スコープ 3 の値 (t-CO₂e) は各カテゴリの小数点以下も含めた t-CO₂e の合計値

以上